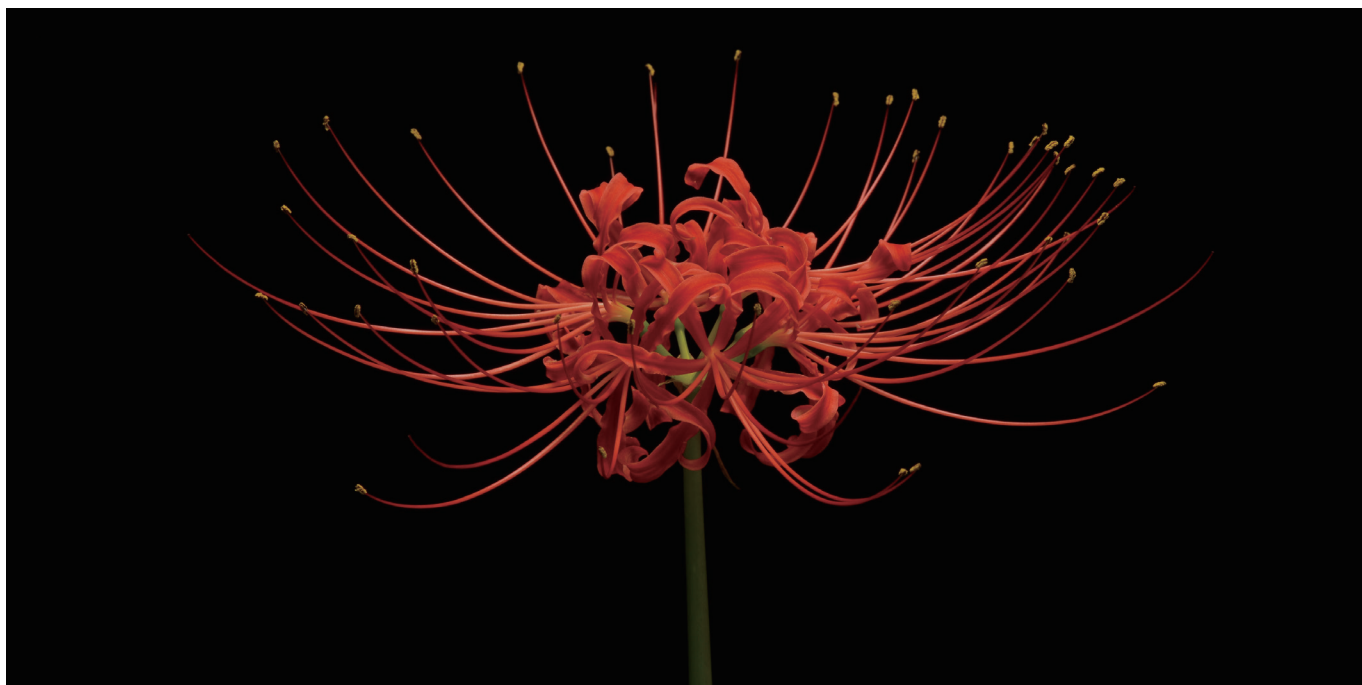


高知県立牧野植物園の展示映像を制作

展示館シアター4KVR映像

自然科学系の映像に特化したスペシャリスト集団が、
最新機器と高度な撮影スキルを駆使して展示映像を制作。
肉眼では捉えられない、自然の営みを可視化します。



220インチの大画面に浮かび上がる、ヒガンバナの特撮映像
(開花の様子をタイムラプスで撮影)

NHKの自然科学番組づくりで培った
専門性とノウハウを注ぎ込む

NEPでは、博物館などの常設展示映像を数多く手がけています。なかでも得意とするのは、自然科学系の展示映像で、高知県立牧野植物園の「展示館シアター」で上映されている4KVR映像も代表作のひとつです。

当社には『NHKスペシャル』『ダーウィンが来た!』などの科学番組や自然番組の制作に特化してきた専門人材が揃い、人体の仕組み、動植物の生態、地震や噴火といった地球の営みなど目に見えないものを可視化し、感覚的にわかりやすい映像作品を制作するノウハウが蓄積。幅広い年齢層の来館者が楽しめる展示映像を制作しています。

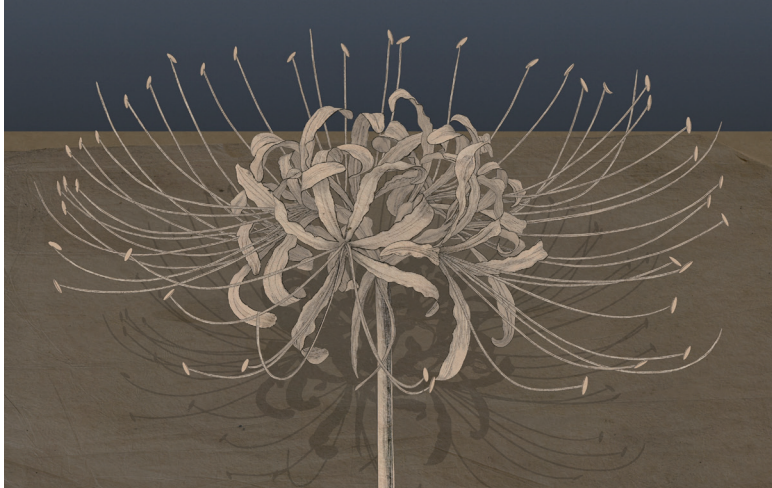
牧野植物園 展示館シアター常設映像

- ①マキノ博士の植物教室
- ②高知自然紀行
- ③牧野博士とめぐる植物園カレンダー
- ④牧野富太郎が描く植物の巧みなしくみ

高知が生んだ植物分類学者・牧野富太郎博士の業績を称え、1958年に開園した牧野植物園に、高知県が4Kシアターの設置を計画。NEPの実績とノウハウが評価され、展示映像の制作を受託しました。

①～④の全4作が上映中です。

8K、VR、ハイスピードカメラを駆使し 植物や昆虫の“ふしぎ”を解き明かす



牧野博士直筆のヒガンバナ植物図を3DCG化。肉眼では見えない細部が初めて明らかに



牧野博士と同郷の声優・小野大輔氏が“土佐訛りナレーション”を担当しています

これまで、NEPは牧野植物園に4作品の展示映像を納めてきました。1作目「牧野富太郎が描く植物の巧みなしくみ」では、博士が描いたヒガンバナの植物図を4KVR（バーチャルリアリティ）映像で3DCG化。1ミリの幅に5本の線を筆で描き込むほどの精緻な植物図をCG映像で立体的に浮かび上がらせ、真上から俯瞰したり、そのまま花卉の間を滑空して下から見上げてみたり……。視点を流動的に変えることにより、“昆虫目線”で植物図を観察できるVR体験を実現しています。

また同作では、ツリアブ科の昆虫・ピロウドツリアブがホバリングしながらシハイスミレの花弁に止まり、蜜を吸い取る姿をハイスピードカメラで撮影。羽を前後にゆらめかせながら、ストローのように細長い口をおしべの奥へと刺し込んでいく様や、体に付着した花粉の様子まで確認することができます。

「展示館シアター」では、タイムスケジュールによる映像作品を鑑賞するだけでなく、インタラクティブなCG描画機能も備えられています。映像に登場するヒガンバナ、シハイスミレ、イチゴなどの3DCGデータは、無線ゲームコントローラーで拡大縮小、主観移動、時間軸を行ったり来たりなど、自在に操ることが可能で、イベントなどで来館者が楽しみながら自然の造形美や成長の神秘を体験することが可能です。

自然界の“神秘”を 可視化する映像技術

「マキノ博士の植物教室」では、見慣れているようでも知られていない、イチゴが花から実になっていく過程を4KCGで視覚化。子どもたちに身近な果物の神秘を感覚的に伝えています。

その他、微速度撮影（タイムラプス）や高速度撮影、実体顕微鏡や電子顕微鏡による撮影、8Kドローン空撮など、牧野植物園「展示館シアター」の映像制作では、NEPが培ってきた高精細映像制作の技術が凝縮されています。



イチゴの花が、みんなが見慣れたイチゴに成長するまでの過程をCGでシームレスに表現